

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書	
令和5年6月15日	
(あて先) さいたま市長 様	
提出者	
住 所 東京都港区海岸1-14-22	
氏 名 NX商事株式会社	
代表取締役 秋田 進	
電話番号 03-5829-1972	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	NX商事株式会社不動産事業本部
事業場の所在地	東京都千代田区神田和泉町2番地
計画期間	令和5年4月1日から令和6年3月31日まで
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	建設業
②事業の規模	建設工事元請完成工事高 不動産事業本部9,723百万円
③従業員数	全社2,756人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別添1 処理工程図の通り

(日本工業規格 A列4番)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図)			
別添2 管理体制図の通り			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	ガラス陶磁器くず	がれき類
	排 出 量	6.0 t	4,408.2 t
	(これまでに実施した取組) 分別収集の促進により混合廃棄物の排出を抑制しリサイクル品目を増やす。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	ガラス陶磁器くず	がれき類
	排 出 量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 引き続き分別収集を促進する。		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) がれき、廃プラスチック、紙くず、木くず、金属くず、ガラス陶磁器類の分別を推進した。		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 引き続き分別を推進し混合廃棄物の排出を抑止する。		

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
② 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類
	排 出 量	0.3 t	38.3 t
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類
	排 出 量	0 t	0 t
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状			
③ 計画			

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
④ 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	木くず	建設混合廃棄物
	排 出 量	152.7 t	0.3 t
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	木くず	建設混合廃棄物
	排 出 量	0 t	0 t
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状			
②計画			

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
⑤ 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃蛍光ランプ類	石綿含有産業廃棄物
	排 出 量	0.1 t	34.9 t
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃蛍光ランプ類	石綿含有産業廃棄物
	排 出 量	0 t	0 t
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状			
②計画			

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) 自ら再生利用は行っていない。		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 自ら再生利用を行う計画はない。		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
(これまでに実施した取組) 自ら熱回収や中間処理により減量化は行っていない。			
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
(今後実施する予定の取組) 自ら熱回収や中間処理を行う予定はない。			

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) これまで自社で埋立処分又は海洋投入処分を実施したことはない。		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 引き続き埋立処分又は海洋投入処分を実施する予定はない。		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	ガラス陶磁器くず	がれき類
	全処理委託量	6.0 t	4408.2 t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	4241.7 t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組) がれき、廃プラスチック、紙くず、木くず、金属くず、ガラス陶磁器類の分別を推進した。		

② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	ガラス陶磁器くず	がれき類
	全処理委託量	0 t	0 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 引き続き分別を促進していく。		
※事務処理欄			

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
③ 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	（		
④ 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
③ 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類
	全処理委託量	0.3 t	38.3 t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	0.3 t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t

④ 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類
	全処理委託量	0 t	0 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
※事務処理欄			

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
⑤ 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(
⑥ 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
⑤ 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	木くず	建設混合廃棄物
	全処理委託量	152.7 t	0.3 t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	0.3 t
	再生利用業者への処理委託量	t	0.3 t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t

⑥ 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	木くず	建設混合廃棄物
	全処理委託量	0 t	0 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
※事務処理欄			

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
⑦ 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	（		
⑧ 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
⑦ 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃蛍光ランプ類	石綿含有産業廃棄物
	全処理委託量	0.1 t	34.9 t
	優良認定処理業者への処理委託量	0.1 t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t

⑧ 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃蛍光ランプ類	石綿含有産業廃棄物
	全処理委託量	0 t	0 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
※事務処理欄			

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

別添 1 処理工程図

がれき類	→ 委託処理（破碎）	→再生利用 最終処分
廃プラスチック類		→再生利用 燃料使用 最終処分
金属くず	→委託処理（圧縮・選別）	→再生利用
ガラスくず・陶磁器くず	→ 委託処理（破碎・選別）	→再生利用 最終処分
木くず	→ 委託処理（破碎・圧縮）	→再生利用 燃料使用
紙くず	→ 委託処理（破碎・圧縮）	→再生利用 燃料仕様
混合廃棄物	→ 委託処理（分別・破碎）	→再生利用 最終処分
石綿含有廃棄物	→ 委託処理（埋立）	→最終処分
廃蛍光ランプ類	→ 委託処理（分別・破碎）	→再生利用 最終処分
建設汚泥	→ 委託処理（脱水）	→再生利用 最終処分

別添 2 管理体制図

